

教養学部教養学科超域文化科学分科

表象文化論コース・ガイダンス資料

コース HP : <https://repre.c.u-tokyo.ac.jp/> (大学院の組織にもとづいているため掲載スタッフが一部異なります)

表象文化論は、多様なジャンルの芸術・文化に対して横断的にアプローチする学問です。1986年、東大教養学部に学科が設立されて始まった、比較的若い学問分野で、それゆえの野心的な進取の気風が特徴です。ほかにも次のような特徴があります。

- ・ジャンル間の影響関係といった現象面での横断性よりも、多様なジャンルを貫く共通の歴史的条件や理論的問題の抽出に関心を向けます。
- ・映画をはじめとする視覚・映像文化と、演劇などのパフォーマンス芸術の研究を柱のひとつとしています。
- ・文化創造・実践の現場との関わりを重視します。

スタッフ

コースの専任教員は14名です。

| | 専門分野 | 2020年度授業題目 |
|----------|---------------|--|
| 一條 麻美子 | 中世ドイツ文学 | 「異界」について—ヨーロッパの伝統から— |
| ジョン・オデイ | 分析哲学、心の哲学 | Historical Introduction to Analytic Philosophy |
| 加治屋 健司 | 現代美術史 | ジョージ・クブラー『時のかたち』を読む |
| マチュー・カペル | 映画学、日本映画 | 映画を詳述すること、あるいは眼差しの構造 |
| 河合 祥一郎 | 16-17世紀イギリス演劇 | シェイクスピアの『ヘンリー四世・第二部』を原語で読む |

| | | |
|-------|-----------------|--|
| 韓 燕麗 | 映画学、中国語映画 | 『中国映画のみかた』から「映画の見方」を学ぶ |
| 桑田 光平 | フランス文学・芸術論 | 記憶、都市、文学——パトリック・モディアノ『Souvenirs dormants』を読む |
| 清水 晶子 | フェミニズム・クィア理論 | クィア理論入門 |
| 竹峰 義和 | 近現代ドイツ思想史、映像文化論 | 経験・語り・記憶——ベンヤミン「物語作者」を出発点にして |
| 田中 純 | 思想史、視覚文化論 | 「表象文化論」の系譜学 |
| 長木 誠司 | 音楽学、現代音楽 | 贋作・偽作・再制作の美学 |
| 中井 悠 | 実験・電子音楽、歴史的音楽学 | (今年度より) |
| 乗松 亨平 | ロシア文学・思想 | 「私」のメディア性、あるいは孤独の不可能性について |
| 森元 庸介 | 思想史 | 卒業論文執筆のために |

他コース・部署所属の教員にも授業を提供してもらっています。

| | | |
|-------|-----------|----------------------|
| 朝倉 友海 | 哲学・比較思想 | 西田哲学を理解する：「場所」論文を中心に |
| 沖本 幸子 | 日本中世演劇・芸能 | 『平家物語』の能を読む |
| 中島 隆博 | 中国哲学 | 世界哲学史を読む |
| 星野 太 | 美学 | (今年度より) |

非常勤講師にも授業をお願いしています。A セメスターにアーティスト講師による美術実習の授業が追加される可能性があります。

2020 年度授業題目

| | |
|--------|---------------------------------------|
| 井上 貴子 | ワールドミュージックから K-POP まで——アジアのポピュラー音楽と社会 |
| 岩下 朋世 | マンガの中の言葉・マンガにとっての言葉 |
| 野村 喜和夫 | 詩脳講義——詩を読む愉しみ／詩を書く悦び |
| 松永 伸司 | 分析美学とビデオゲーム |

過去3年間の卒業論文題目

- ・ジャン=ジャック・ルクーのデッサンにおける人体と建築の表象
- ・ジョルジュ・バタイユの「異質学」
- ・テレビジョンから革命の理論へ
- ・浦沢直樹『PLUTO』論
- ・都市型国際美術展としての横浜トリエンナーレ
- ・野田秀樹作品における「天皇」表象の問題
- ・フォーク歌手フィル・オックスのプロテスト性
- ・能〈井筒〉における夢とワキの立場
- ・民族誌映画の新たなプラットフォームへ
- ・ピクサーの特徴的表現技術から解析する映画『リメンバー・ミー』（2017）の表現の独自性
- ・是枝裕和作品論——ジャンルとしての家族映画のこれまでといま
- ・スーパー歌舞伎II『ワンピース』から見る現代の歌舞伎
- ・復元という行為——映画『ジュラシック・パーク』シリーズにおける古生物の表象
- ・濱口竜介の時間と空間
- ・現代日本における芸術と公共性——「表現の不自由展・その後」を中心に
- ・ジュディス・バトラーにおける責任論
- ・〈娘役〉のクィアネス——花總まりを例に
- ・相米慎二監督作品における通過儀礼
- ・宮崎駿の飛翔表現における機械と魔法
- ・アニメーション作品におけるタイムスリップ
- ・マジックの美的経験 イリュージョンからフィクションへ
- ・二次創作とファンコミュニティ 『Undertale』AUを事例に
- ・脱毛行為と美しい身体——身体加工における眼差しと感覚——
- ・津島佑子の後期作品における動物——『笑いオオカミ』と『ナラ・レポート』を中心に